

現状調査 2

高度な医療機能の集積・強化等に関する現状調査

目次

Contents

Page

I	岡山都市圏の医療機関の立地状況	2
	1. 医療機関の立地状況	2
	2. 高度医療機関の状況	5
II	岡山都市圏市民アンケート結果概要（医療関連）	8
	1. アンケート調査の概要	9
	2. 医療機関の広域利用状況	10
	3. 岡山都市圏の医療体制に関する意識	13

I - 1 . 医療機関の立地状況 【病院の状況】

- 岡山都市圏に立地する病院数は101病院であり、うち一般病院が91病院、精神科病院が10病院である。一般病院91のうち半数以上の48病院が岡山市内に立地しており、圏域内の医療機能が集積している。また、津山・玉野市にも一定の集積が見られる。
- 人口規模の小さい町では病院数が少なく、久米南町には病院が立地していない。

□ 岡山都市圏における病院の状況（2014年）

市区町	病院数	病院数		病床数	病床数				
		一般病院	精神科病院		一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
岡山市	54	48	6	11,067	7,231	974	2,796	58	8
北区	26	23	3	7,004	5,180	224	1,534	58	8
中区	11	10	1	1,763	876	405	482	-	-
東区	8	8	-	651	448	203	-	-	-
南区	9	7	2	1,649	727	142	780	-	-
津山市	11	9	2	1,807	865	298	606	30	8
玉野市	10	9	1	1,081	516	224	341	-	-
総社市	3	3	-	222	68	154	-	-	-
備前市	5	5	-	346	258	88	-	-	-
瀬戸内市	4	4	-	1,669	1,435	114	120	-	-
赤磐市	1	1	-	212	152	60	-	-	-
真庭市	7	6	1	847	425	222	200	-	-
和気町	2	2	-	214	108	78	-	28	-
早島町	1	1	-	398	373	-	-	25	-
久米南町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美咲町	1	1	-	48	-	48	-	-	-
吉備中央町	2	2	-	266	150	116	-	-	-
都市圏計	101	91	10	18,177	11,581	2,376	4,063	141	16

I - 1 . 医療機関の立地状況 【診療所の状況】

- 岡山都市圏内の診療所は一般診療所が1,083カ所あり、うち690カ所が岡山市内に立地している。人口規模の大きい市町では、日常の医療ニーズに対応するために診療所の数も多いという結果である。

□ 岡山都市圏における診療所の状況（2014年）

市区町	一般診療所		歯科診療所
	診療所数	病床数	診療所数
岡山市	690	1,053	429
北区	390	552	228
中区	117	124	74
東区	70	91	42
南区	113	286	85
津山市	99	262	50
玉野市	53	32	36
総社市	47	156	28
備前市	30	25	19
瀬戸内市	31	19	15
赤磐市	38	21	23
真庭市	43	82	21
和気町	12	34	5
早島町	8	19	7
久米南町	6	-	2
美咲町	12	14	5
吉備中央町	14	-	4
都市圏計	1,083	1,717	644

I - 1 . 医療機関の立地状況 【医師数の状況】

- 岡山都市圏内の医師数も病院・診療所と同様に岡山市・津山市・玉野市のウェイトが高い状態である。
- 診療科を見ると、和気町には小児科を専門とする医師がいない、備前市・早島町・久米南町・美咲町・吉備中央町には産婦人科を主な診療科とする医師がいない等、地域間の医療機能には大きな差が見られる。

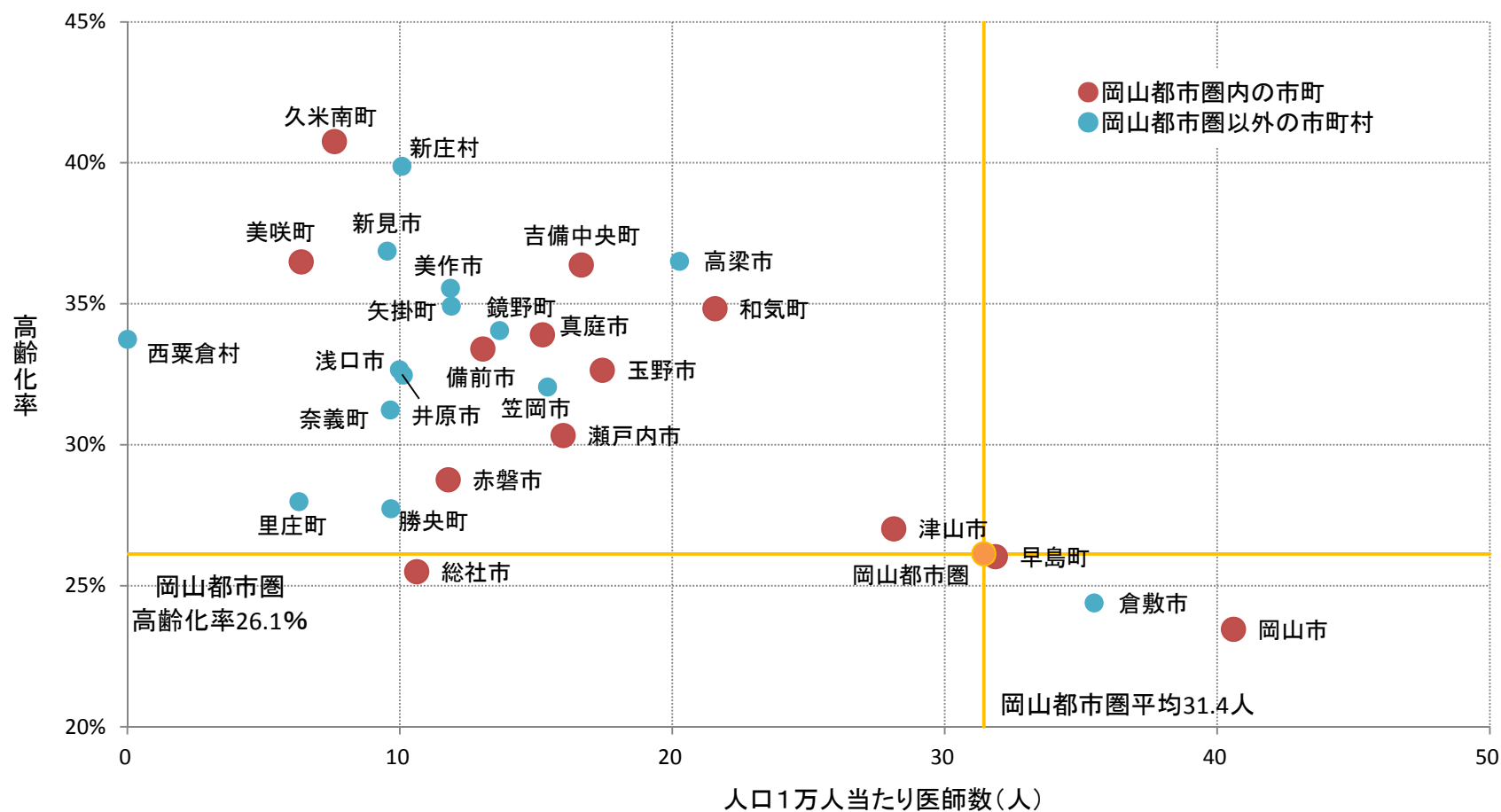
□ 岡山都市圏における医師の状況（2014年）

市区町	医師数	主な診療科					
		病院	診療所	内科	外科	小児科	産婦人科
岡山市	2,861	1,933	811	545	132	149	96
北区	2,164	1,611	469	338	94	115	69
中区	297	139	143	89	12	12	11
東区	132	46	77	45	13	6	4
南区	268	137	122	73	13	16	12
津山市	297	176	113	87	15	16	13
玉野市	111	63	44	33	21	5	3
総社市	72	11	54	28	8	4	2
備前市	49	26	22	25	7	3	-
瀬戸内市	62	35	26	29	11	2	1
赤磐市	53	13	38	22	7	5	2
真庭市	75	40	33	32	13	1	2
和気町	33	24	8	15	5	-	1
早島町	39	31	8	9	3	3	-
久米南町	4	-	4	3	-	1	-
美咲町	10	4	6	6	1	1	-
吉備中央町	21	13	6	11	-	-	-
都市圏計	3,687	2,369	1,173	845	223	190	120

I - 1 . 医療機関の立地状況 【医師数の状況】

- 岡山県内各市町村の人口当たり医師数と高齢化の状況を見ると、高齢化率が低い岡山市・倉敷市・津山市・早島町では人口当たり医師数が比較的多いが、高齢化率が高く、かつ人口規模も小さい自治体については医師数が少ない状況である。
- 岡山県内・岡山都市圏内いずれにおいても、医療環境には格差があることがわかる。

□ 岡山県内市町村における医師数と高齢化の状況（2014年）



I - 2. 高度医療機関の状況 【拠点病院等の状況】

- 岡山都市圏における高度医療機能を担っているのは、岡山市内の4病院（総合病院岡山赤十字病院、岡山済生会総合病院、国立病院機構岡山医療センター、岡山大学病院）、津山市の津山中央病院、及び真庭市の金田病院である。
- 救急医療体制では、三次救急医療体制として、高次救急救命センターが岡山市（岡山大学病院）、救急救命センターが岡山市（総合病院岡山赤十字病院）・津山市（津山中央病院）に立地している。

医療圏	医療機関名	立地市区町	三次救急医療	小児救急医療拠点	地域周産期母子医療センター	がん診療所連携拠点病院	災害拠点病院
			高次救急救命センター：◎ 救急救命センター：○	小児救急医療拠点病院：◎ 小児救急医療支援病院：○	総合周産期母子医療センター：◎ 地域周産期母子医療センター：○	県がん連携拠点病院：◎ 地域がん診療拠点病院：○	基幹災害医療センター：◎ 地域災害医療センター：○
県南東部	総合病院岡山赤十字病院	岡山市	○		○	○	◎
県南東部	岡山済生会総合病院	岡山市				○	○
県南東部	国立病院機構岡山医療センター	岡山市			◎	○	○
県南東部	岡山大学病院	岡山市	◎		○	◎	
津山・栄田	津山中央病院	津山市	○	◎	○	○	○
真庭	金田病院	真庭市				○	
県南西部	川崎医科大学付属病院	倉敷市	◎	○	○	○	○
県南西部	倉敷中央病院	倉敷市	○	○	◎	○	○

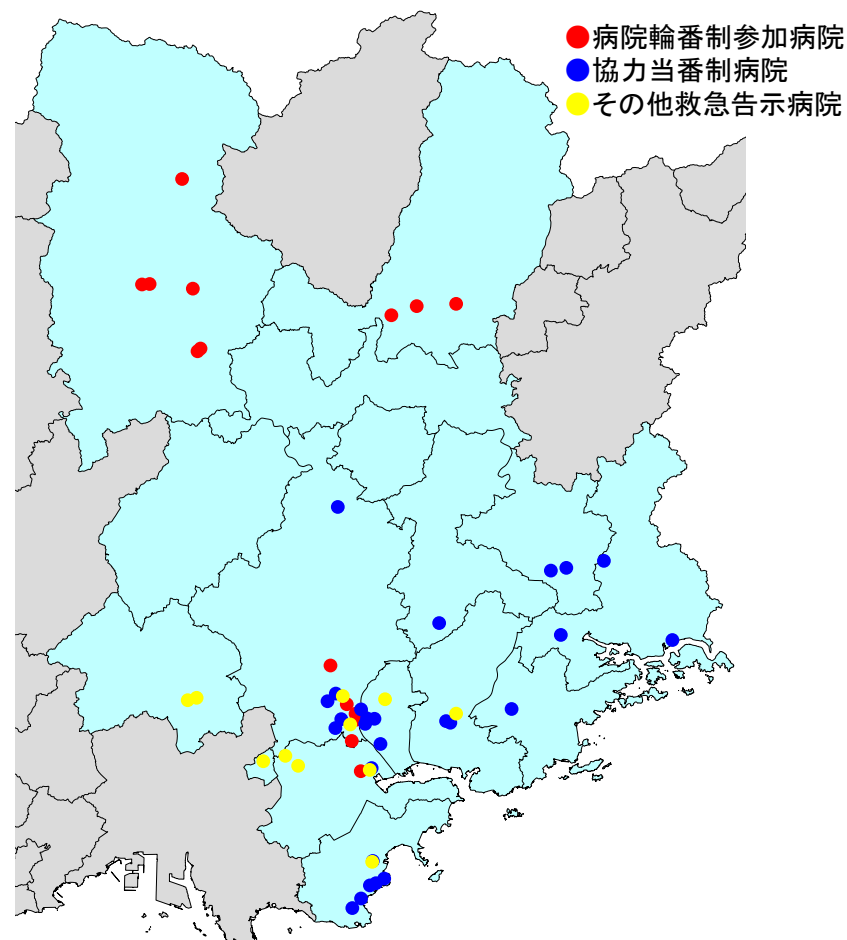
I - 2. 高度医療機関の状況 【救急医療体制】

- 都市圏内に含まれる4つの二次医療圏（県南東部、県南西部、真庭、津山・英田）のうち、都市圏全体で54の医療機関が二次救急医療機関として、圏域の救急医療体制を構築している。
- 二次医療機関の立地状況からは、県北部・南部に病院の立地が目立つが、県中部には病院の立地が少ないことがわかる。

□ 岡山都市圏における救急医療体制

医療圏	都市圏内 市町	二次救急医療機関			
		総数	病院輪番制 参加病院	協力病院 当番制病院	その他救急 告示病院等
県南東部		42	6	27	9
	岡山市	28	6	14	8
	玉野市	7	0	6	1
	備前市	3	0	3	0
	瀬戸内市	1	0	1	0
	赤磐市	1	0	1	0
	和気町	2	0	2	0
県南西部		3	0	0	3
	総社市	2	0	0	2
	早島町	1	0	0	1
真庭		6	0	0	0
	真庭市	6	6	0	0
津山・英田		3	0	0	0
	津山市	3	3	0	0

□ 二次救急医療機関の立地状況



目次

Contents	Page
I 岡山都市圏の医療機関の立地状況	2
1. 医療機関の立地状況	2
2. 高度医療機関の状況	5
II 岡山都市圏市民アンケート結果概要（医療関連）	8
1. アンケート調査の概要	9
2. 医療機関の広域利用状況	10
3. 圏域の医療体制に関する意識	13

Ⅱ-1. アンケート調査の概要

- 岡山都市圏住民アンケートは、住民の日常の生活圏域と今後の地域づくりのための必要な取組を把握することを目的に実施した。全6,000通の調査票を発送し、回収数は3,238通（回収率54.2%。有効発送数ベース）である。
- 本項ではこのアンケート調査から医療機関の利用に関するものを抜粋し記載する。

□ 岡山都市圏住民アンケート概要

項目	内容
調査目的	①岡山都市圏内の住民の日常の生活圏域の把握 ②今後の地域づくりのために必要な取組の把握
調査対象	岡山都市圏内住民
データ数	○サンプル数 6,000票(有効発送数5,977票) ○有効回答数 3,238票(回収率54.2%)
調査時点	2015年10月21日～11月10日(本報告書掲載の有効回答数、回収率は11月30日までの回収分を反映)
標本抽出	岡山都市圏内の市町の20歳～70歳代の住民を無作為抽出(市町の人口規模に応じ、発送数を按分)
調査方法	自記入式アンケート調査票を郵送により配布・回収
調査事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 性別、年齢、居住地、家族構成、職業、運転免許の有無 ● アンケート事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活の生活圏域～日常の生活で利用する施設の場所・交通手段・所要時間、居住地の満足度 ・ 地域づくりに必要な取組～優先的に取り組むべき事項、市町村の連携についての意識、連携して取り組むべき事項

□ アンケート回収状況

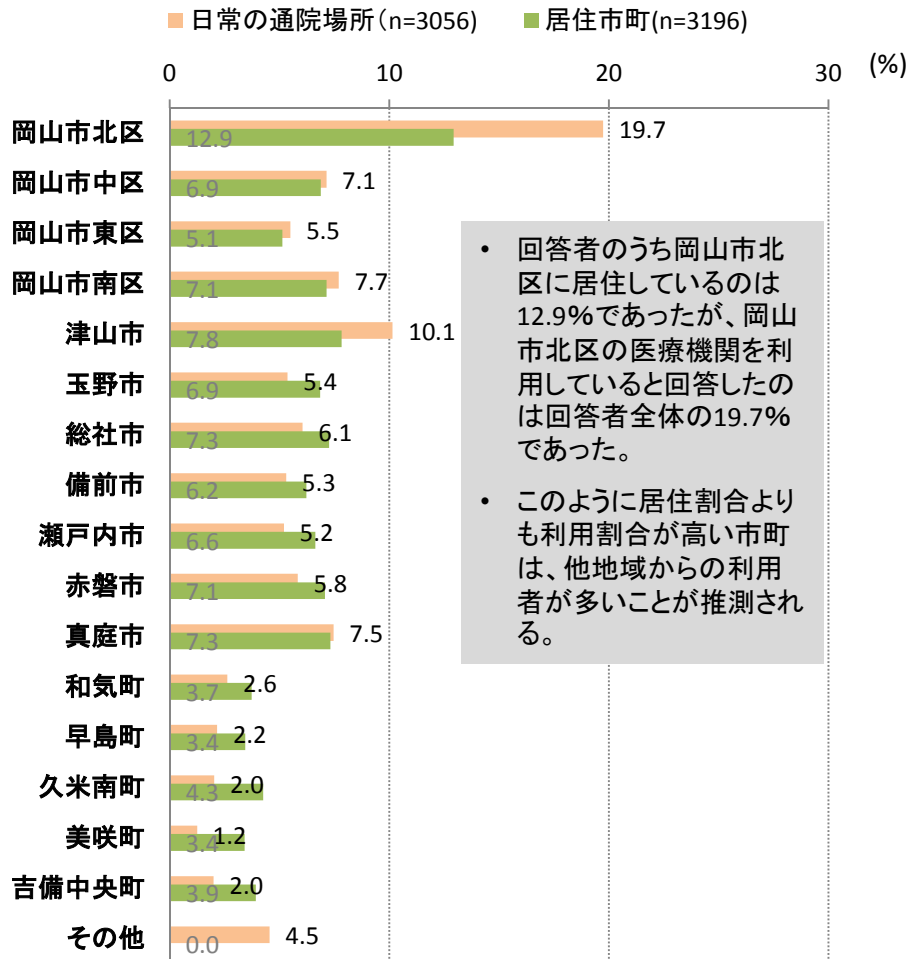
市町村	発送数(票)	回収数(票)	回収率(%)
岡山市	2,000	1,025	51.3
北区	-	413	-
中区	-	220	-
東区	-	164	-
南区	-	228	-
津山市	600	250	41.7
玉野市	400	219	54.8
総社市	400	232	58.0
備前市	400	199	49.8
瀬戸内市	400	212	53.0
赤磐市	400	226	56.5
真庭市	400	234	58.5
和気町	200	119	59.5
早島町	200	110	55.0
久米南町	200	136	68.0
美咲町	200	109	54.5
吉備中央町	200	125	62.5
不明	-	42	-
合計	6,000 (有効発送数:5,977)	3,238	54.2 (有効発送数ベース)

出所:岡山都市圏住民アンケートより

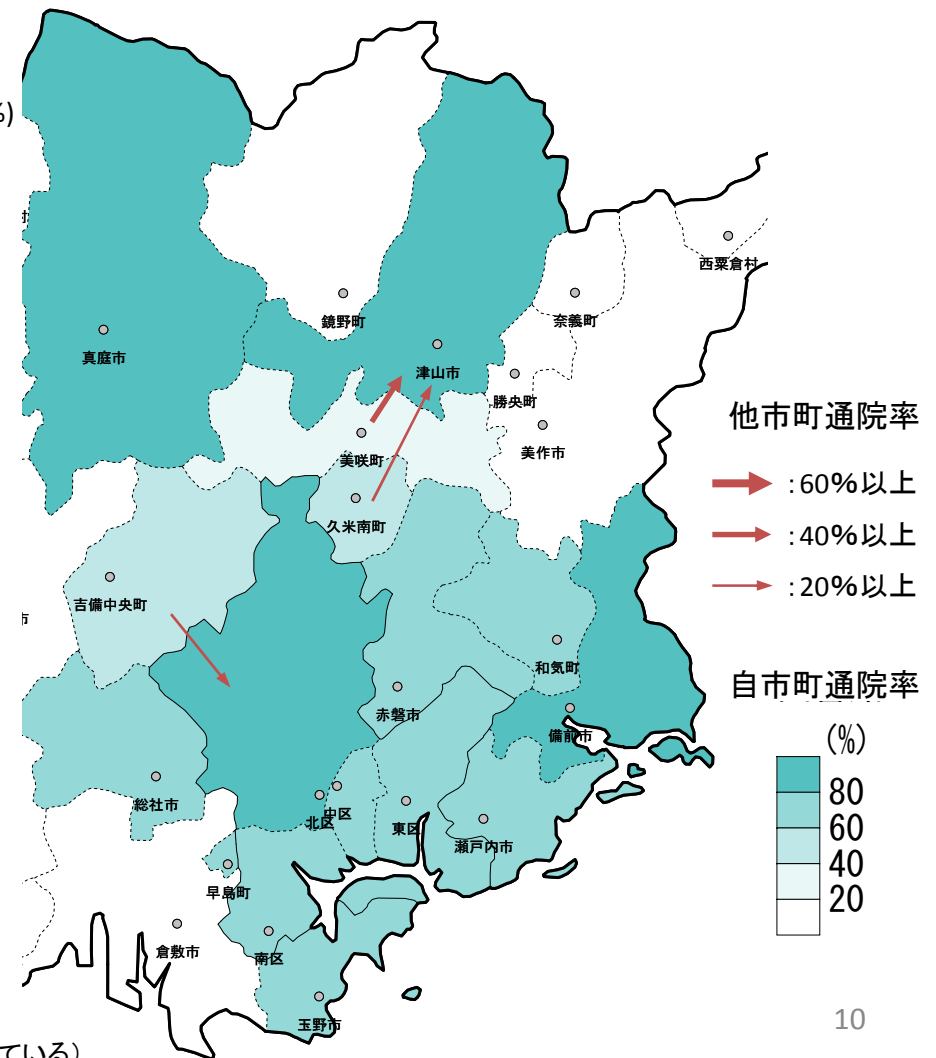
Ⅱ-1. 医療機関の広域利用状況 【日常の通院先】

- 日常の通院先については、後述する高度医療機関への通院と比べると、基本的に自市町内に留まる傾向があるが、圏域内でも比較的医療機関及び医師数が少ない吉備中央町については岡山市北区に、美咲町・久米南町については津山市へ通院する動きがみられる。

□ 岡山都市圏における救急医療体制



- 回答者のうち岡山市北区に居住しているのは12.9%であったが、岡山市北区の医療機関を利用していると回答したのは回答者全体の19.7%であった。
- このように居住割合よりも利用割合が高い市町は、他地域からの利用者が多いことが推測される。

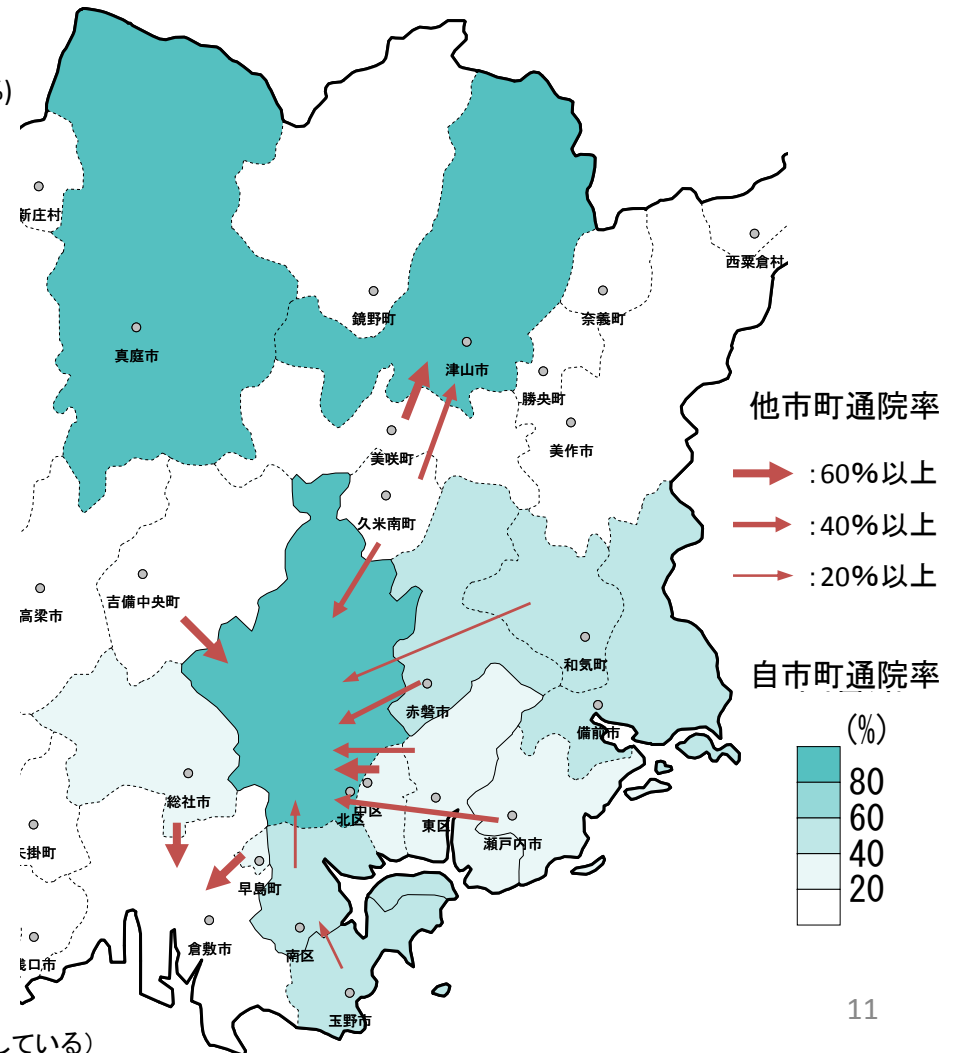
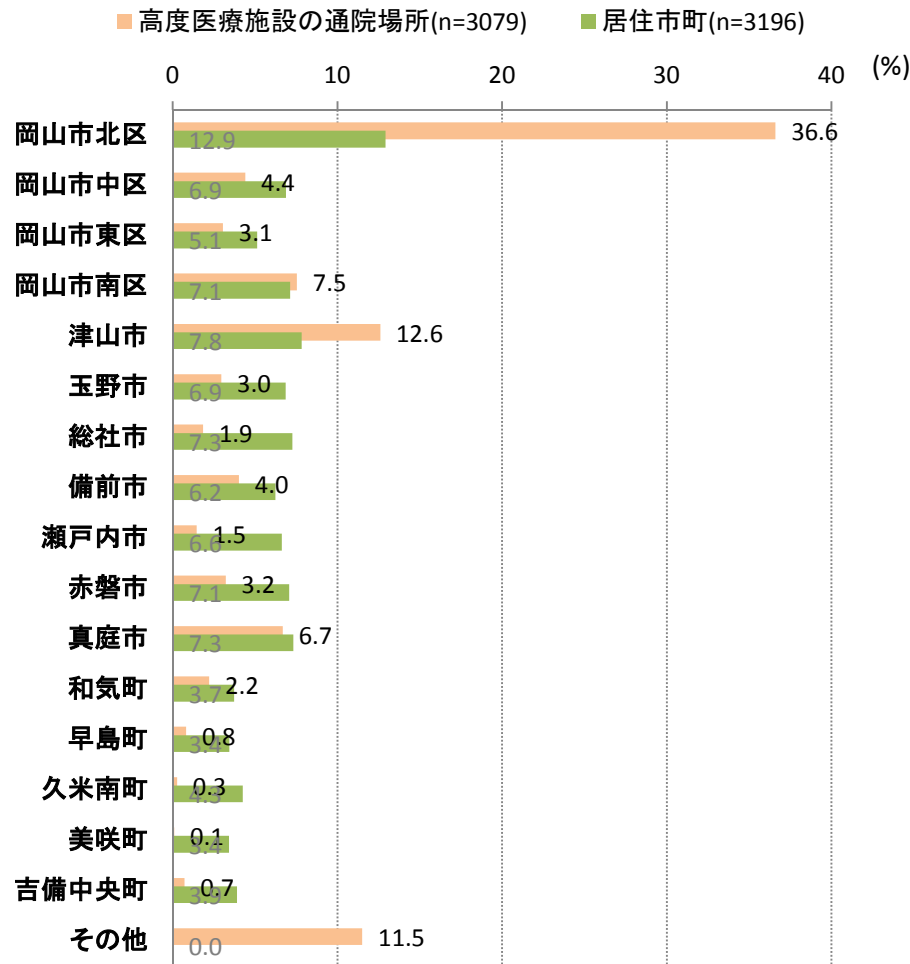


出所：岡山都市圏住民アンケートより(グラフ内のn値は不明を除く回答数を表している)

Ⅱ - 1 . 医療機関の広域利用状況 【高度医療機関】

- 高度医療機関への通院については、圏域内の2次医療圏の中心である岡山市（特に北区）と津山市に通院先が集中している。同じく2次医療圏の中心である真庭市は自市町内での通院率が高い。
- 総社市・早島町については倉敷市を中心とする2次医療圏に属していることから、圏域外（主に倉敷市）への通院が多い。

□ 岡山都市圏における救急医療体制

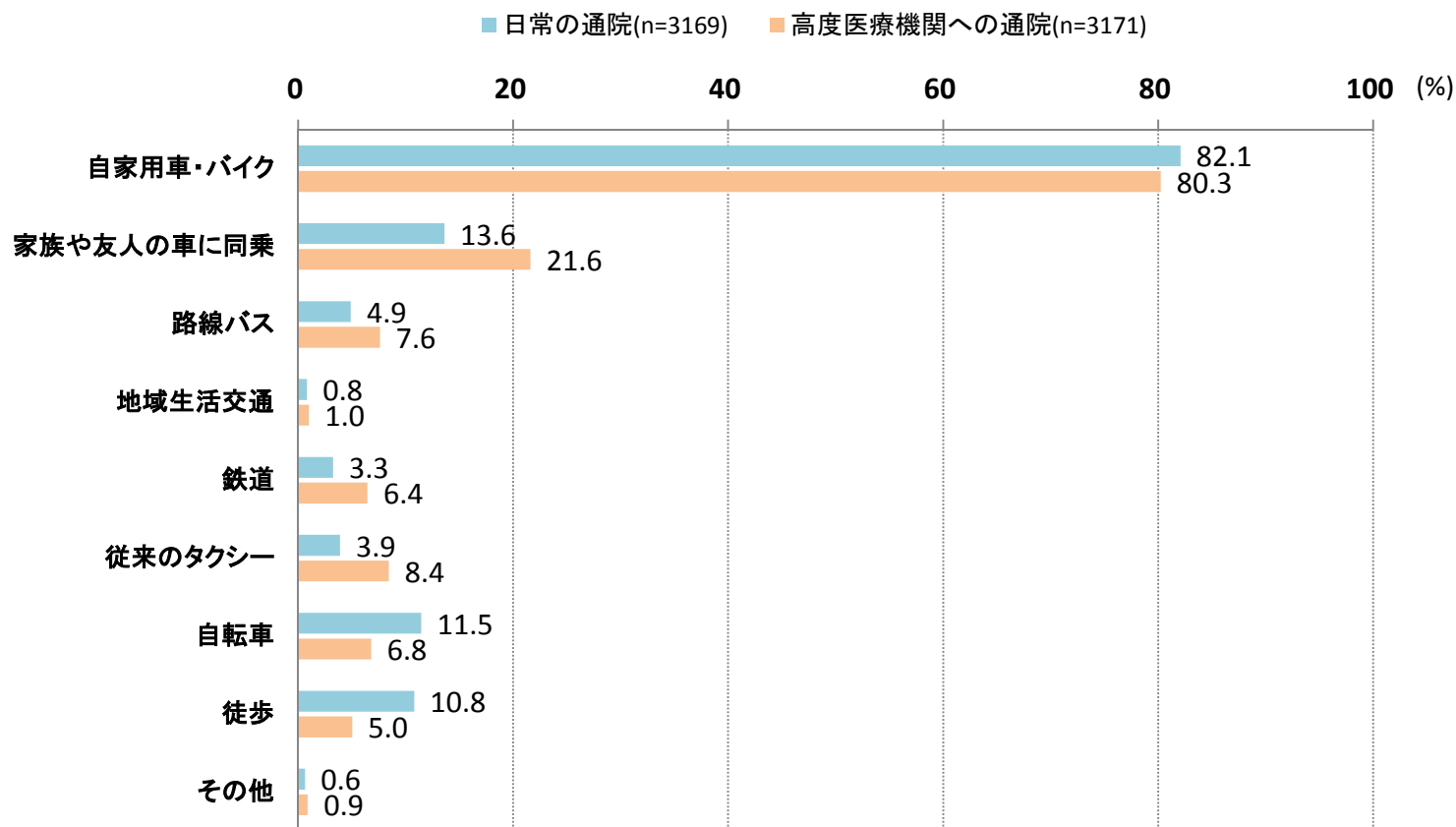


出所：岡山都市圏住民アンケートより(グラフ内のn値は不明を除く回答数を表している)

Ⅱ - 2 . 医療機関の広域利用状況 【通院のための交通手段】

- 通院のための交通手段としては、日常の通院・高度医療機関への通院ともに「自家用車・バイク」の利用が主である。
- 「路線バス」「鉄道」「従来のタクシー」といった交通機関の利用については、高度医療機関への通院時に使用される傾向がある。公共交通機関は、高度医療機関への通院手段として重要なものといえよう。

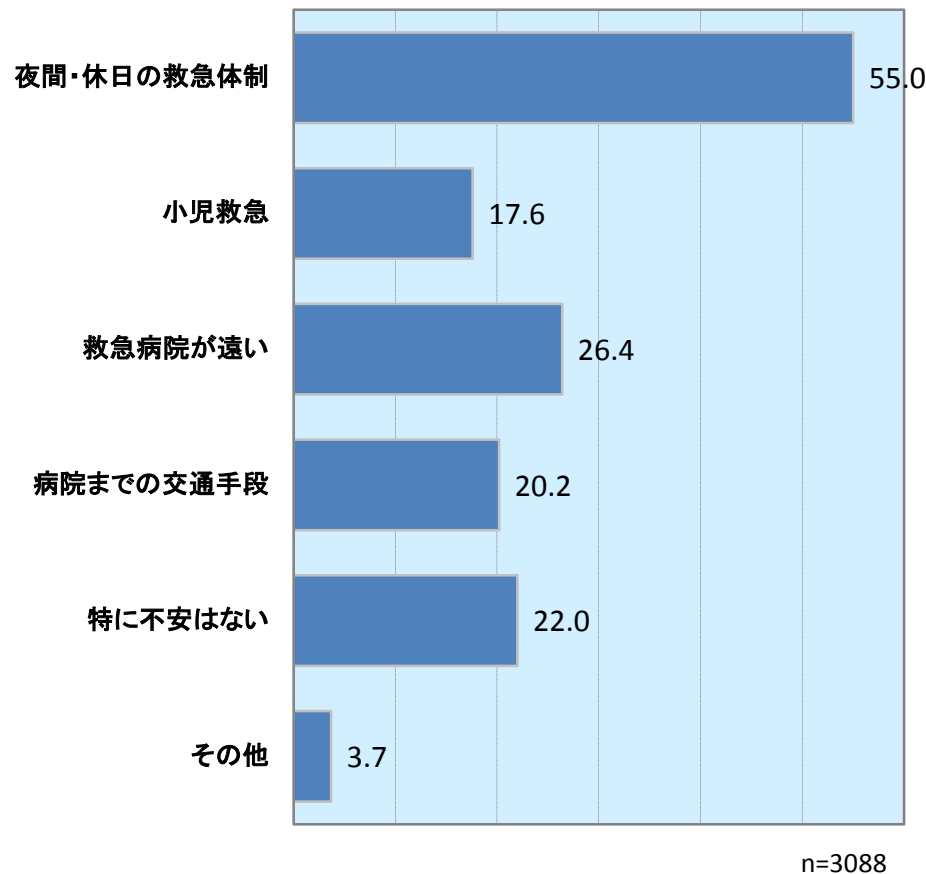
□ 岡山都市圏における通院時の交通手段



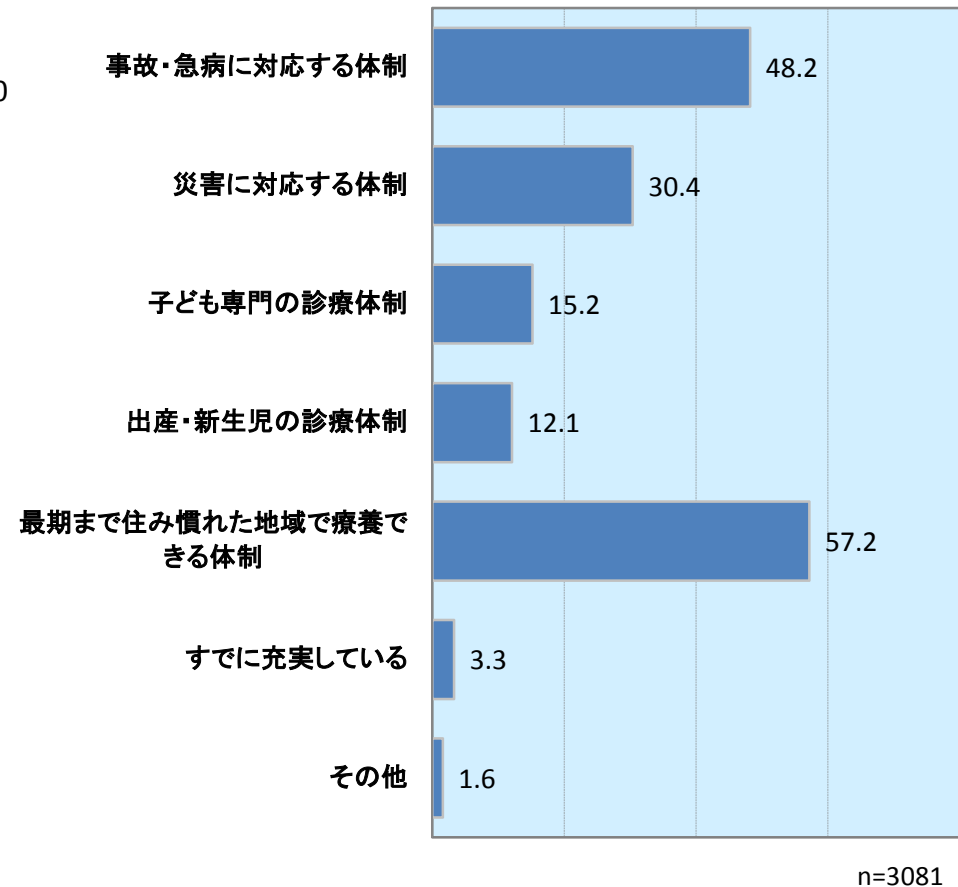
Ⅱ-2. 岡山都市圏の医療体制に関する意識

- 岡山都市圏の住民が抱える救急医療に関する不安として、最も値が高かったのが「夜間・休日の救急体制」で55.0%であった。次いで「救急病院が遠い」(26.4%)、「特に不安はない」(22.0%)、「病院までの交通手段」(20.2%)、「小児救急」(17.6%)と続いている。
- 岡山都市圏域で充実すべき医療体制は、「最後まで住み慣れた地域で療養できる体制」が57.2%で最も高くなった。次いで「事故・急病に対応する体制」(48.2%)、「災害に対応する体制」(30.4%)と続いている。

□ 救急医療に関して不安なこと



□ 今後充実すべき医療体制



出所: 岡山都市圏住民アンケートより(グラフ内のn値は不明を除く回答数を表している)